

指導者として大切にしたいこと（その6）

～ キーワードは、「楽しむ」と「夢（目標）」 ～

2019年7月

広島地区ミニバスケットボール連盟

副会長 大庭 浩 資

広島地区ミニバスケットボール連盟の指導者の皆様、役員の皆様、いつもお世話になっております。

広島地区大会も無事終了し、県大会出場チームが決定しました。県大会出場チームにおかれましては、全関西ミニバスケットボール交歓大会出場に向けて、これから約2週間の練習期間を有意義なものとしてください。健闘をお祈りいたします。

また今回は残念ながら、全関西への出場が叶わなかったチームにおかれましては、ぜひとも大会のT・Oでのご協力をお願いいたします。

私も、今地区大会において、いろいろな会場を回りましたが、どの会場も熱気にあふれ、素晴らしいプレイが随所に見受けられました。そしてこの暑さの中でも、子どもたちが必死にボールを追いかける姿を見て、本当にバスケットボールが好きなんだろうな、バスケットボールが楽しいのだろうなと感じました。

バスケットボールを楽しんでいる子どもたち、そんな子どもたちを心から応援する保護者の皆様、そして子どもたちと日々向かい合っている指導者の方々、さらに大会運営等で組織を支えてくださる役員の方々。実に多くの皆様のおかげで連盟の活動が成り立っているのを改めて感じるとともに、本当に感謝の気持ちしかありません。広島地区ミニバスケットボール連盟としては、この素晴らしい関係を今後も継続していきたいものです。

さてここ最近のバスケットボール界での話題は、なんと言っても、米プロバスケットボール協会（NBA）のドラフト会議で、八村塁選手（21）がウィザーズから1巡目指名されたことでしょう。

小学校時代は野球をしていた八村選手。ドラフト会議の後、中学校でバスケットボールを教えた坂本コーチに電話をかけた場面は、テレビ等で何度も何度も報道されました。

その多くの報道の中で、「楽しむ」と「夢（目標）」についての記事が目にとまりましたので紹介します。

指導者としても、指導することを「楽しみながら」、また指導者としての「夢（目標）をもちながら」、バスケットボールを通して、子どもたちの心と体の健全育成に努めていければと思います。

私がお手伝いをしているチームの中にも、毎回の練習日や試合の後に、感想を書いている選手がいます。時々、その選手のノートを読ませてもらいますが、本当にバスケットボールが好きなことが伝わってきます。また、私自身も参考になる感想や言葉もたくさんあります。最近読んだノートの中で、心に残った言葉は

「努力するものは希望（夢）を語り、怠けるものは不満を語る」です。

ちなみに、私の今の夢（目標）は、「高学年は認め合い助け合いながら一丸となってプレイしてくれること、また新しく入部した子どもや低学年の子どもたちは、このままバスケットボールを楽しんで、バスケットボールを続けてくれること」です。

八村選手 < コーチがあって今がある >

「中学校は本当に楽しかったですね。コーチもすごくいい人で。よく格言みたいに言われたのが、『一生懸命を楽しむ』。そういうところから始まったから僕もバスケットを続けられたし、楽しいなと思ってやってるんじゃないかなと思います。」

「コーチ、ホントにやりましたよ！ここに立っていることが本当に夢みたいで、信じられないですね。」

坂本コーチ < 合言葉は「NBA」 >

小学校まで野球をやっていた八村選手。本格的にバスケットを始めた当時、体こそ大きかったが、ミニバスケットボールを経験してきた他の選手と比べると技術で劣っていた。しかし坂本さんは練習中、八村が片手でボールをつかめるところを見て、はっとした。

「君はNBA選手みたいだな」。声をかけられた八村選手は最初、NBAがどんなものかも分からなかった。しかし周りの生徒に映像などを見せてもらい、どんどん気持ち乗っていった。

坂本さんは八村選手がくじけそうになると、「そんなことで何がNBAだ」「NBA選手になれないぞ」と激励。「(最初は)他愛のない話で本気でもなかったが、随所で意識するようになって、あの子の夢（目標）になった」。ジャンプシュートなど技術を習得すると、めきめき力を伸ばしていった。

「素直で穏やかな選手」と坂本さん。記者会見を通じてだが、八村選手から感謝の言葉を贈られ、「(みんなに)バスケットを教えてもらって成長し、全国の場に立たせてもらった。仲間のおかげだと彼は感じていた」

朗報を受けた21日、坂本さんは富山市内で「本当にありがたい。今までやってきたことは間違っていなかった」と話した。八村選手とは電話で会話し、喜びを分かち合った。